



山形県

2018年2月号

理学療法士会 広報誌



ご挨拶	山形県理学療法士会会長 高橋 俊章	2
理学療法士とは		3
人生のあらゆる面をサポート		4
活動報告		
平成29年度 介護予防・健康増進キャンペーン活動報告		5
第99回全国高等学校野球選手権山形大会		6
やまがた健康フェア2017		7
理学療法週間		
高校生の理学療法体験		8
知っていますか? こんな豆知識		9

目次

学校紹介

- ・学校法人 諏訪学園 山形医療技術専門学校 11
- ・公立大学法人 山形県立保健医療大学 11

施設紹介

- 鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院 12
- 訪問介護ステーション にじ 12
- 有限会社 なごみの部屋 13
- 在宅リハビリ看護ステーションつばさ 13



ご挨拶

一般社団法人
山形県理学療法士会会長

高橋 俊章

平素は山形県理学療法士会へのご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

当会は山形県内に勤務する理学療法士の学術技能の研鑽と資質の向上に努め、県民の皆様の保健・医療・介護・福祉の発展に寄与することを目的として、公益性のある社会的活動や学術的活動を行っている団体です。現在、914名の会員が病院、診療所、介護保険関連施設、福祉施設、肢体不自由児施設及び教育機関等に広く勤務しています。

理学療法士は、身体に障がいのある方たちのリハビリテーションを行ってきた身体づくりの専門家です。理学療法の役割は、対象者一人ひとりの状態を把握し、対象者の持つ最大限の能力を引き出すことであり、失われている基本的動作能力の回復を図り、生活を支援することです。近年はこの技術を高齢者の寝たきり予防や心身の機能維持・増進を図るために活用しています。

健康寿命を短くしているのは脳卒中・転倒骨折・認知症です。また、普段元気で生活していた人でも何らかの原因で活動が低下し、家に閉じこもり要介護状態になってしまう場合があります。このような方々の

状態に共通していることは「運動による予防が効果的」という点です。加齢による老化は徐々に起こりますが、それを遅らせることは運動により可能です。高齢者の老化に対して「運動による老化予防が効果的」であることは科学的にも証明されています。ただし、人の身体機能は個人差が大きいことから、運動によって効果を出すためには、一人一人の身体の状態を把握することが前提条件となります。理学療法士は心肺機能・関節の動き・筋力の状態・痛み・バランス等の数多くの項目について評価を行い、その中から課題を把握し、どのような運動が効果的かを判断します。

山形県理学療法士会はこれらの活動を通して、「尊厳ある自立」と「その人らしい生活」を支援する身近な理学療法士の団体として存在したいと考えております。そして、理学療法を通じて山形県の医療・保健・福祉の向上、介護予防や健康増進に貢献できるよう会員一同努力を重ねてまいります。

今後とも県民の皆様はじめ関係団体の皆様のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



理学療法士とは

理学療法は運動療法や徒手療法、物理療法を用いて、
失われた身体の機能を回復させる治療方法です。
理学療法士は、病気やケガの回復を促し、
社会や日常生活に戻るまでを支援する役割を担います。
さらに、生き甲斐やその人らしさをサポートする
自立支援、生活支援、健康増進、介護予防などの分野や、
教育や研究などさまざまな場面でも活躍しています。



医療機器・福祉用具販売レンタル

TOTAL MEDICAL COMMUNICATION

株式会社 トーク

日医器連通正事業所 第9406017号
福祉用具貸与事業所 0670700434

〒997-0806
山形県鶴岡市遠賀原字稲荷41-2
TEL (0235) 22-1009 FAX (0235) 25-8139

E-mail: took@coral.ocn.ne.jp

安心と信頼

・前腕義手・股義足・下腿義足・骨格構造義肢・
(大型短断端を含む)
・腰・胸椎装具・靴型短下肢装具・歩行補助つえ・車イス・
(コルセット)

山形県指定一級義肢装具士
安達武雄
安達ブレイス製作所

山形市江保3丁目15-1
☎(023) 681-0456

医学書のことならお任せください



日本医書出版協会認定医学書専門店
医学書、看護学書、医書一般

株式会社 高陽堂書店

山形市大野目3-1-17 TEL 023(631)6001 FAX 023(632)1168
http://www.koyodo.com/ email info@koyodo.com

山形県より、福祉用具販売・取付の推薦を
いただき、官公需適格組合証明を取得

協同組合 生活住環境整備山形

〒990-0805 山形市檀野前13-2
TEL 023-681-5030 FAX 023-681-7609

福祉機器・介護用品販売レンタル／車いすオーダー制作



(有)アシスト

〒991-0048 山形県寒河江市みずき一丁目6-4
TEL (0237) 83-5525 / FAX (0237) 85-5454

E-mail: assist@corp.email.ne.jp

山形小木医科器械株式会社

山形市北町三丁目8番20号
電話 (023) 681-3633 (代)

人生のあらゆる場面をサポート

理学療法士は、「赤ちゃん」から「お年寄り」までの人生のあらゆる場面でサポートいたします。みなさまがより良い人生をお送りできるよう、理学療法士は活動しています。



赤ちゃん

発達支援



就学支援

子ども



スポーツ
健康づくり

学生



就労支援
生活習慣病
予防

社会人



介護予防
自立支援

お年寄り



理学療法士の活動している場所は？

医療サービス	病院／診療所
保健サービス	介護予防／特定保健指導
介護保険サービス	通所リハビリテーション／訪問リハビリテーション／老人保健施設／住宅改修・福祉用具のアドバイス
行政サービス	市・区役所／保健所／保健センター
福祉サービス	障害者福祉センター／障害児（者）通所・入園施設／特別支援学級・学校
スポーツサポート	障害者スポーツ／スポーツ傷害予防
研究開発事業	大学院／研究所／理学療法関連企業

公益社団法人日本理学療法士協会
「理学療法士ガイドより引用」

公益事業推進部 活動報告書

平成 29 年度 介護予防・健康増進キャンペーン活動報告

日時：平成 29 年 7 月 9 日（日）11：00～13：00

会場：イオンモール山形南 1 階センターコート

○スタッフ

岩井 章洋 高平 真澄 加藤 太祥（山形県立中央病院）

黒田 昌宏 栗野ひろみ（みゆき会病院）

菊池 豪 野上 千尋（山形済生病院）

早坂 慎也 板垣 早紀 烏 和之（至誠堂総合病院）

※応援に高橋会長・今野理事に参加頂きました。

○活動内容

- ・お客さんへのパンフレット等（クリアファイル、チラシ、ポケットティッシュ、ボールペン、広報誌）の配布とロコチェックの呼び込み
- ・ロコチェック（立ち上がりテスト、2ステップテスト）、実施後の説明
- ・シルバーリハビリ体操の紹介
- ・健康、運動相談ブースでの個別対応
- ・DVD上映

○ロコチェックの参加者

- ・計38名（男性 12名 女性 26名）
- ・年代別内訳
男性 30代 5名 40代 2名 50代 2名 60代 1名 80代 2名
女性 30代 2名 40代 4名 50代 8名 60代 7名 70代 3名 80代 2名

○全体の感想・反省点

今回のキャンペーンは、メインテーマを介護予防健康増進キャンペーン『体操で健康づくり・仲間づくり・地域づくり～理学療法士によるシルバーリハビリ体操の紹介～』と題して、村山地区ではイオンモール山形南にて行いました。

ブースの前を通りかかったお客さんに対して、ポケットティッシュを配りながら、同時にロコチェックの参加を呼びかけるといった形での活動を行いました。ポケットティッシュはおよそ 600 個配布出来ましたが、声掛けはするものの足を止めてくれる方も少なく、ロコチェックに結びつけていく事が中々難しい状況でした。しかし、実際に参加して下さった方々より、『今日が自分の身体を改めて知るよい機会となった』『運動を指導してもらい、将来のため出来るだけ続けたい』といった前向きな発言も多く聞かれ、概ね好評だったと感じています。

また、『理学療法士は病院で働くイメージがあったけど、このような事もしているんだね』というお言葉も頂き、今回のキャンペーンを通して理学療法士の行う介護予防・健康増進活動を理解して頂くよい機会となったと感じます。

開催場所の性格上、若年層が多い事はある程度予想していましたが、対象をご家族（ご両親や祖父母）にまで拡大するという狙いは、ロコチェックの参加者からみても幅広い年代の方に利用して頂き大変よかったと感じています。

今年でキャンペーンとして 4 回目を迎え、開催形式も変わりながら毎年試行錯誤し準備を進めて行ってきました。理学療法士が行う本キャンペーンが、毎年のイベントとして市民・県民、行政、医療・介護従事者の間でまだまだ定着されていない現状を感じてはおりますが、今後も地域での活動を通し、理学療法士を広く知って頂きながら、県民の健康増進・介護予防の一助となれるよう取り組んでいきたいと考えています。

○会場の様子



文責：至誠堂総合病院 烏 和之

公益事業推進部 活動報告書

山形県高等学校野球連盟より「第 99 回全国高等学校野球選手権山形大会」におけるトレーナー活動の依頼がありました。山形県野球場にて活動を行いましたので以下に報告させていただきます。

日 時：平成 29 年 7 月 20 日（木）～ 23 日（日）

会 場：荘内銀行・日新製薬スタジアムやまがた（中山町）

天童市スポーツセンター野球場（天童市）

活動内容：野球選手に対する試合前後のコンディショニング、試合中の応急処置

参加スタッフ：20 日 日詰 和也（新田クリニック） 富樫 弘人（山形徳洲会病院）

22 日 浦山 樹（山形大学医学部附属病院）

23 日 佐々木祐輔（吉岡病院）※雨天順延

本年は 23 日に予定されていた決勝戦が雨で順延となったため、準々決勝から準決勝までの 5 試合において本部トレーナーとして当士会会員が参加いたしました。

具体的活動内容は、大会本部救護室に待機し、参加チームより試合前にテーピング依頼があり対応したほか、選手に対する試合後のコンディショニングを行いました。また、試合中に発生した捻挫に対して RICE 処置を行いました。

<具体的事例>

- 野手に対する試合前テーピング
- 試合後の選手コンディショニング
- 試合中の足関節捻挫例に対する応急処置

今回このような貴重な機会を与えて下さった、山形県高校野球連盟、山形県理学療法士会に深く感謝致します。

文責：山形徳洲会病院 富樫 弘人

公益事業推進部 活動報告書

『やまがた健康フェア 2017』において一般社団法人山形県理学療法士会が協賛し、事業に参加しましたので以下に報告します。

名 称：『やまがた健康フェア 2017』

開催日時：平成 29 年 9 月 30 日（土）10：00～17：00 10 月 1 日（日）10：00～16：00

会 場：山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）

テ ー マ：ロコチェックで健康づくり

内 容：ロコモ度テスト・判定・フィードバック、個別相談ブースの設置、パンフレット等の配布

スタッフ：9 月 30 日（土）13 名 10 月 1 日（日）13 名

対 象 者：やまがた健康フェア 2017 に来場された方々

参 加 者：2 日間合計 378 名

男性 116 名（10 代 6 名 20 代 6 名 30 代 7 名 40 代 12 名 50 代 12 名
60 代 26 名 70 代 33 名 80 代 13 名）

女性 262 名（10 代 12 名 20 代 11 名 30 代 17 名 40 代 17 名 50 代 46 名
60 代 61 名 70 代 78 名 80 代 20 名）

今年度は会場やブースの規模も拡大し、様々なイベントが開催されました。当会では日本整形外科学会が啓発するロコモティブシンドローム（以下、ロコモ）の予防に対する検査方法である、ロコモ度テストに基づき「立ちあがりテスト」と「2 ステップテスト」を行いました。ブース前でポケットティッシュを配布しながらの呼び込み活動を行い、ロコモ度テストに参加して頂きました。その後、テスト結果に対するフィードバックや運動方法をお伝えし、パンフレットを配布しました。

ブースへの参加者は 2 日間で 400 名近くになり、昨年度と同程度の参加者となりました。比率は女性が多く占め、年代別にみると男性、女性とも 60 代と 70 代の方がボリュームゾーンとなっており、関心の高さが伺えます。参加者からは、『もっとできる自信があったが、思った以上に身体が動かず、自分の身体を知るよききっかけだった』という声や、『理学療法士さんが病院や施設以外でもこのような活動をしているのを初めて知った』という声も頂きました。基本的にはパンフレットの内容を踏まえながら運動方法等をご説明しましたが、同時に我々の職業を知って頂くよい機会になったと感じています。また、10 月 1 日には山形大学附属病院整形外科医の佐々木幹先生の講演にも当会スタッフが参加させて頂きました。

今後も公益事業推進部では地域での活動を通し、理学療法士を広く知って頂きながら、県民の健康増進・介護予防の一助となれるよう取り組んでいきたいと考えています。



文責：至誠堂総合病院 鳥 和之

2017 理学療法週間 高校生の理学療法体験

日本理学療法士会が定める、7月17日を基準とする一週間を「理学療法週間」として、理学療法や理学療法士に関して、その職務や資格などを理解していただく活動を行っております。山形県理学療法士会としては、「高校生の理学療法体験」を毎年行っております。今年も200名を超える高校生にご参加いただきました。今回は理学療法体験に参加していただいた高校生の方の感想をまとめてみましたのでご紹介させていただきます。

2年 女子

今は健康で何も感じなくても怪我をしたときとかを考えると大変だと感じました。

2年 男子

実際に杖を使って歩いてみたり、松葉ついで階段を上り下りさせてもらい、障害を持っている人の気持ちや大変さを身を持って体験することができてとても良かったです。

3年 女子

様々な道具を使って、一人一人に合ったリハビリを考えていくことや、患者さんとのコミュニケーションを大切にして、リハビリを行っている姿を見ることが出来てとても良い体験をさせていただきました。

2年 男子

今回の理学療法体験を通して、改めて将来のことを考えることが出来ました。まだまだ知らないことが多いので理学療法について調べたいと思います。

2年 女子

実際の仕事の現場を見させていただきありがとうございました。実際に体験してみて大変さが身に染みてわかりました。しっかりとした理学療法士になれるように頑張りたいです。

2年 女子

想像以上に仕事が多いと思った。退院後のことまでもサポートしていかなければならず、大変だった。

3年 女子

私は3年生になってから看護師から理学療法士に志望を変えました。わからないことばかりだったけれど、たくさんのことを知れて良かったです。今後の進路実現に生かしていきたいと思いました。

3年 女子

生の現場を見学できたので、実際にどのようにサポートしていくかなどを見られたのですごく勉強になりました。改めて理学療法という仕事がかっこいい仕事だと思いました。





障がい者のスポーツとは

知っていますか？
こんな豆知識

資格

最上町立最上病院 理学療法士 多田 雄一

日本障がい者スポーツ協会公認 障がい者スポーツトレーナー
日本障がい者スポーツ協会 指導者協議会公認 中級障がい者スポーツ指導員
日本パラ陸上競技連盟 クラス分け委員
日本ウィルチェアラグビー連盟 クラシファイヤー

1. 障がい者スポーツの世界

近年、私たちの生活にスポーツは欠かせないものとなりました。スポーツについての情報やニュースは、毎日耳にいたします。楽しむだけではなく、自己実現や健康増進という意味合いでも、人生を豊かにする大変重要なものです。障がい者スポーツでもっとも有名なパラリンピックは歴史が古く、1964年の東京オリンピック大会でも開催されています。第2回の夏季パラリンピック（第13回ストック・マンデビル大会）が開催されました。パラリンピックと呼ばれる、定着したのは東京大会以降と言われており、国際的に認知された有名な大会です。2020年の東京パラリンピックの開催を間近に控え、不思議な巡りあわせを感じております。障がい者のスポーツは様々な競技で行われております。身近な競技としては陸上、水泳、卓球、ボウリングなどがあります。冬季の競技ではアルペンスキーやバイアスロンなど、珍しい競技ではフライングディスク、車いすラグビー、ゴールボール、ボッチャなどがあります。それぞれの競技で国内大会、国際大会が開催されています。パラリンピックをはじめ、知的障がい者の「スペシャルオリンピックス」、聴覚の障がい者の「デフリンピック」など、世界最高峰の大会も開催され、障がい者のスポーツは世界的に認知されるようになりました。

国内においては健常者の国体にあたる「全国障がい者スポーツ大会」をはじめ、ジャパンパラリンピックなど一年を通して開催されています。平成29年度の全国障がい者スポーツ大会「愛顔つなぐ愛媛大会」には、山形県から代表選手団が参加し、金メダル11個、銀メダル7個、銅メダル6個という成績を上げました。このような国内大会から世界大会へ出場していく選手も多く、一握りではありますが、プロとして、収入を得ている選手も存在します。



平成29年度 全国障がい者スポーツ大会 山形県選手団

2. 障がい者スポーツの意義

車いすマラソンの世界的選手、ハインツ・フライは次のような言葉を残しています。「障がいの無いものはスポーツをしたほうが良い。障がいを持つ者はスポーツを行うべきだ。」この言葉は言



障がい者スポーツクラブ チームヴァルハラ
パラトライアスロンの練習風景

い換えると、「障がいを持つと全身の機能が低下し、運動不足や機能障害などの二次的障害に悩まされる」ということを示唆しているものです。また彼は次のように発言しています。「私は自分を（いわゆる）障がい者だと思ったことがない。なぜなら自分の人生をコントロールしているからだ。」と話しています。「いわゆる障がい者」という表現に、彼の苦労が滲んで見えます。障がいを持つと、様々な不自由が突き付けられます。身体の機能だけではなく、社会的な不自由も襲ってきます。「いわゆる障がい」とは「社会的な不自由」のことを示しています。スポーツを始めたことで、生活に必要な筋力や能力が改善することもあります。またこれまで行けなかった場所や、娯楽に対しても、臆せず挑戦していく方もたくさんいらっしゃいます。障がい者のスポーツが発展することは障がい者本人にとっても、社会的にも大変意義深いものといえるのではないのでしょうか。

3. 「クラス分け」という制度

障がい者のスポーツを語るうえで忘れていけないものがあります。「クラス分け」という制度です。全ての競技に義務付けられている大変重要な制度です。スポーツ選手たちの障がいは千差万別です。そのため、ある程度の線引きをしなくては不公平な状況になります。100m 競争の世界記録は、大腿切断（T42）で 12.11 秒、下腿切断（T44）では 10.61 秒。その差は 1.50 秒もあります。脚の切断した長さによって、使用できる筋肉は制限されます。そのため絶対的な機能の差が発生してしまうのです。「クラス分け」と同じような制度として、ボクシングや柔道の体重別を想像すると理解しやすいです。競技の公平性を保つために、「クラス分け」が必要となります。また団体競技では「持ち点」が選手に割り当てられます。興味を持った競技がございましたら、是非クラスについて確認してみてください。楽しさ倍増です。



選手のサポート風景

4. 山形県の現在

現在 2020 年のオリンピック・パラリンピックに向けて、日本各地で大変な盛り上がりを見せています。山形県には「山形県障がい者スポーツ協会」という専門的な組織があります。県内の障がい者の皆様にスポーツにおけるサポート、情報提供、相談など多彩な活動を行っています。また山形県障がい者スポーツ大会の開催と全国障がい者スポーツ大会への選手派遣も行っており、障がい者の社会参加という面でもなくてはならない存在となっています。また競技力向上という視点でも重要な役割を担っております。平成 29 年度から強化指定選手を指定しました。県内の障がい者のスポーツ選手において特に優れた選手には、様々なサポートを受けることができます。日本障がい者スポーツ協会公認の障がい者スポーツトレーナーが専門的にサポートを行う体制が確立され、競技力向上に向けて動き出しています。山形県の選手にはアジア記録を持っている方や国際大会で活躍している方もいらっしゃいます。まずは山形県障がい者スポーツ協会のホームページにて注目選手を検索してみてもはいかがでしょうか？ 2020 年の東京パラリンピックがより楽しく、身近なものになること間違いなしです！

学 校 紹 介



厚生労働省指定養成施設 学校法人 諏訪学園
山形医療技術専門学校
Yamagata College of Medical & Sciences

【学校紹介】

本校は理学療法学科、作業療法学科を有する4年制の専門学校です。平成7年に開校し現在までに550名を超える理学療法士を輩出しており、県内の病院、施設等に多くの卒業生が勤務し活躍しております。

学校見学

本校では連絡をいただければ、随時学校見学が可能です。

会場：山形医療技術専門学校

内容：学校の特色や入試についての説明、校内見学（実習室など）、質問コーナー

対象：受験生だけでなく、高校1・2年生、先生方、保護者の方も参加できます。

また、7・8月にはオープンキャンパスを実施しております。

募集

学 科：医療専門課程 理学療法学科 40名

修業年限：修業年限 4年間（昼間）

選抜方法：・推薦選抜（公募・自己）

・社会人選抜（Ⅰ期・Ⅱ期）

・一般選抜（Ⅰ期・Ⅱ期）

◎もっと詳しく知りたい方はお気軽に学校までご連絡ください。



アクセス

■バス

・山形市役所、山交ビル、山形駅前より乗車「長井行き(R348山形一長井)」～医療技術専門学校前
・所要時間：山形市役所前より約20分

■タクシー

・JR山形駅東口前より 所要時間：約15分
・JR山形駅西口前より 所要時間：約10分



【連絡先】

学校法人諏訪学園 山形医療技術専門学校
〒990-2352 山形県山形市大字前明石字水下水367番地
TEL(023)645-1123 FAX(023)645-1250
ホームページ <http://www.ymisn.ac.jp/>



公立大学法人
山形県立保健医療大学
Yamagata Prefectural University of Health Sciences

本学は、平成9年に1学部（保健医療学部）、3学科（看護学科、理学療法学科、作業療法学科）からなる短期大学として創設され、平成12年に4年制大学として改組され、お互いの職種の役割を理解し、連携、協調のできる人材育成に取り組んでおります。

本学では、医療専門職に必要な高い治療技術を身につける技術教育および、科学として確立させていく視点を養う教育に力を注いでおり、21世紀における科学の発展を担う人材の育成に取り組んでおります。

平成16年より大学院博士前期課程、平成29年からは、大学院博士後期課程での教育を開始しました。社会人が職場に在籍したまま修学することができ、学生の必要に応じて、夜間や土曜日に講義を開講するほか、夏期、冬期の休業期間中に集中講義を行っております。また、長期履修制度の利用が可能です。

本学の卒業生は、山形県内に多数就職しており、県内の保健・医療・福祉に貢献しております。地域貢献活動として、公開講座ならびに山形県内の医療従事者を対象とした講習会を開催しております。

また、コロラド大学理学療法学科との交流を中心として、国際交流にも力を入れております。「山形から世界へ」との思いを胸に、教員、学生ともども努力を重ねたいと思っております。



アクセス

・JR

JR奥羽線「南出羽駅」下車
徒歩約10分。または、JR仙山線・奥羽線で「羽前千歳駅」下車、徒歩約20分。

・バス

JR山形駅前から「県立中央病院」行に乗り、終点下車（乗車約30分）、徒歩約5分。



連絡先

公立大学法人 山形県立保健医療大学
〒990-2212 山形県山形市上柳260番地
TEL.023-686-6611 FAX.023-686-6674
ホームページ <http://www.yachts.ac.jp/>

施設紹介

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院

当院は診療科として内科、脳神経外科、リハビリテーション科があり、回復期リハビリテーション病床 81 床、療養病床 39 床の回復期・維持期の病院です。対象疾患は脳血管疾患、大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折、廃用症候群、脊髄損傷や難病等で、急性期治療が終わった時点で社会復帰・自宅退院出来ない方に、病状に応じた 365 日リハビリテーションを提供しています。またデイケア室も併設しているため、在宅復帰された方へも一貫したリハビリテーションの提供が可能です。

スタッフ数は理学療法士 30 名、作業療法士 25 名、言語聴覚士 4 名の計 59 名で、スタッフ同士仲が良く、患者様のリハビリテーション介入に必要な情報共有も円滑に行えています。

昨年度より自動車運転シュミレーターも導入しており、入院患者様対象に多職種で協働しながら自動車運転再開に向けた支援も行っています。今後も地域に根差した病院を目指し、より良いリハビリテーションを提供していきたいと考えています。



訪問看護ステーションにし

当ステーションは、平成 23 年 6 月に開設。現在看護師 5 名、理学療法士 3 名体制で東根市・村山市周辺を中心にサービスを実施しております。看護職・リハビリ職関係なくスタッフ同士で情報交換を行い、サービスを提供しております。

在宅で過ごされている方、一人一人がその人らしい生活を継続していくことができるように支援させていただいております。ご利用者様の希望の聞き取りを行い、リハビリプログラムを立案し、実際のご自宅の環境を利用し、一人一人の生活パターンにあったリハビリを実施しております。

また、夜間などの緊急時の連絡にも対応し、積極的に在宅での看取りも支援させていただける点も特徴の一つです。



施設紹介

有限会社 なごみの部屋

当ステーションは有限会社なごみの部屋を母体とし、地域に根付いた医療と介護を目的に平成14年5月に開設されました。上杉家ゆかりの米沢市にあり、事務所も上杉神社のすぐ東側に位置しております。現在、看護師6名、理学療法士5名、作業療法士1名、言語聴覚士1名在籍しております。理学療法士は主に各家庭を伺う訪問リハビリを中心に勤務しており、状態や目標がそれぞれ異なる利用者様に対して御満足頂けるようケアを提供しています。その他にデイサービスでの集団体操や介護予防教室等も行っております。

各スタッフとの連携を大事にし、笑顔と初心を忘れず、これからも業務に励んでいきたいと思っております。宜しくお願いします。



在宅リハビリ看護ステーションつばさ

当ステーションは、平成16年4月に開設しました。山形市の南に位置し、サービス提供範囲は山形市、上山市、山辺町、中山町となっています。

現在は山形その他、天童と米沢にサテライトを開設しています。

スタッフは看護師9名・理学療法士8名・作業療法士8名・言語聴覚士2名でサービス提供を実施しています。

利用者の対象疾患は運動器疾患、脳血管疾患が大半を占めていますが、次いで神経難病の方も2割弱と大きな割合を占めています。

対象年齢は小児～高齢者まで幅広く、対応しています。

介護保険下での利用者が大半ですが、医療保険でのサービス提供も増加しています。

看護師と共に利用者に介入する機会も多く、リハビリと看護の連携も非常に重要となっております。当ステーションでの人員の多さも強みで、互いにコミュニケーションを取りながらサービス提供を実施しています。

今後は更に利用者や家族、地域のニーズに応えられる様に連携を図りながら、職員一丸となって、積極的に取り組んでいきたいと考えています。



◆山形県厚生省労働省指定◆

(有) 渡部 義肢

◆営業品目◆
義足・義手、コルセット、車椅子、ステッキ、下肢装具、上肢装具、骨格義足(モジュラー)
〒997-0861 山形県鶴岡市桜新町8番地52号
TEL(0235)25-9366 FAX(0235)25-9364



義肢・装具・車いす
他 整形外科医療器具製造・販売

(有) エムサポート

〒990-2212 山形市上柳110
TEL(023)687-2800 FAX(023)687-2812
取引銀行 山形銀行宮町支店(普通)0241881

福祉用具開発・レンタル販売 <http://www.tamatsu.jp>



本 社 山形県鶴岡市美咲町32-7(〒997-0857)
TEL 0235-23-6333 / FAX 0235-25-3889

思いやりリハビリ・まごころケア

(有) 福祉用品やまがた

介護用品ショールーム
〒998-0842 山形県酒田市亀ヶ崎4-2-40
電話 (0234) 26-1725
FAX (0234) 26-6780



オーダーメイドの福祉用具

株式会社 ライフケアサポート

山形県東根市温泉町1-13-10
TEL0237(43)6833 FAX0237(43)6832



医療の未来を見つめる総合商社

岡崎医療株式会社

■本 社 山形市あこや町三丁目4番3号
■山形営業所 〒990-0025 ☎023(代)623-0546番
■鶴岡営業所 鶴岡市大字安丹字村上4番10号
〒997-0057 ☎0235(代)22-0106番

生命科学・医療福祉分野を総合的にサポートする



株式会社 シバタインテック

■山形支店 〒990-2323 山形県山形市桜田東二丁目1番21号
TEL:023-642-8153 / FAX:023-623-5853
本社(仙台)・荘内営業所・鶴岡営業所・郡山営業所・ロジスティックセンター・メンテナンスセンター



厚生労働省
指定
福祉法義肢製作所指定

山形義肢研究所

—— 営業品目 —— 代表取締役 植松 茂夫
義手・義足・コルセット・補装具 山形市飯田五丁目5番39号
補助ステッキ・松葉杖・車いす 電話 (023) 632-5214
整 形 医 療 器 具

あなたの笑顔が見たいから

株式会社 蔵王サプライズ

●リネンサプライズ・ホスピタルリネン事業部 ●ホームヘルスケア事業部 ●リースキン事業部
ホームヘルスケア事業部 山形市銅町二丁目21番4号 TEL (023) 674-9600
支店・営業所 仙台支店／新庄営業所／庄内営業所

福祉用具の製作・販売・レンタル

風の郷工房 (有)

東置賜郡高島町一本柳 2535-1
TEL 0238-52-1446 FAX 0238-52-1411
URL: <http://www.kazenosato.co.jp/>
座位保持装置・車椅子
電動車椅子・歩行器など

編集後記

この広報誌は県民の皆様に、少しでも我々の活動を知って頂くために年1回発行しております。県内の理学療法士のいる施設の紹介や養成校の案内、県内各地で開催される山形県理学療法士会主催のイベント等様々掲載しております。今回の豆知識は、障がい者スポーツの世界とその魅力について紹介しております。是非ご一読いただけたら幸いです。この広報誌を通して我々の活動が少しでも身近に感じていただければ幸いです。これからも地域に密着した活動を心がけて参りますので、よろしくお願い致します。

三友堂リハビリテーションセンター 島貫

- 発行 / 一般社団法人 山形県理学療法士会
- 発行者 / 高橋 俊章
- 編集者 / 岩井 章洋
- 広報部 / 三友堂リハビリテーションセンター

〒992-0057 山形県米沢市成島町3丁目2番90号
TEL (0238) 21-8100 FAX (0238) 21-8119
E-mail: ptkouhoubu@yahoo.co.jp